

利根川の大切さと役割

五年 須藤 祐香

利根川は、しなの川について日本第二位の
流路延長です。ほかに流域面積は、約一万六
千八百四十九ヘイホウキロメートルあります。

戦後、東京では人口の集中や水道の急速な
普及により、水の需要が増大しました。

それに加え、昭和30年代からは深刻な日照り
が続いたため、東京オリンピック直前の昭和
39年には、水不足はピークになりました。

真夏のしゅとは、東京さばくといわれるほど
のパニックじょうたいとなりました。この水
不足をかいしょうするため、水量のゆたかな
利根川の水をしゅとけんに送ることが国の方
針として決定されました。昭和39年、利根川
の水をあらかじめ送るためのむさし水路、あ
らかじめ水をとるための秋ヶせしゅすいえ
ん、東京都へ水を送るためのあさかじょう水
路がつくられ、けんせつ中の昭和39年8月25
日からさんきゅうつう水を開始し、しゅとけ

んを湯水から救いました。